

第1章 ビジョンの基本的な考え方

1. ビジョン策定の趣旨

本市では、第2次東御市総合計画における将来都市像として「人と自然が織りなす しあわせ交流都市 とうみ」を掲げています。

この“しあわせ”交流都市には、本市の自然の恵み、農山村の潤いに育まれてきた個性豊かな文化と美しい郷土に愛着と誇りをもち、心あたたまるふれあい、いきいきとした活動によって人と人を結び、誰もが笑顔で暮らし続けられる“幸せが実感できるまち”でありたいという思いが込められています。

このような人と人を結ぶ“交流”を創出していくためには、本市のもつ豊かな自然と薫り高い文化など、これまで蓄積してきた有形・無形の魅力ある資源を最大限に活用していくと共に、それらを効果的に発信し、人を呼び込んでいく「観光振興」の視点は欠かすことができません。

さらに新交通網時代を見据えると、今後さらなる観光振興の可能性が広がり、東京一極集中から地方への新しい人の流れが始まると考えられます。

このことから、第1次観光ビジョンにおける成果や課題を踏まえたうえで、観光資源と人と人の関わりを活かした、地域の新たな価値の創造に取り組んでいくため、その指針となる第2次東御市観光ビジョンを平成27年度に新たに策定しました。

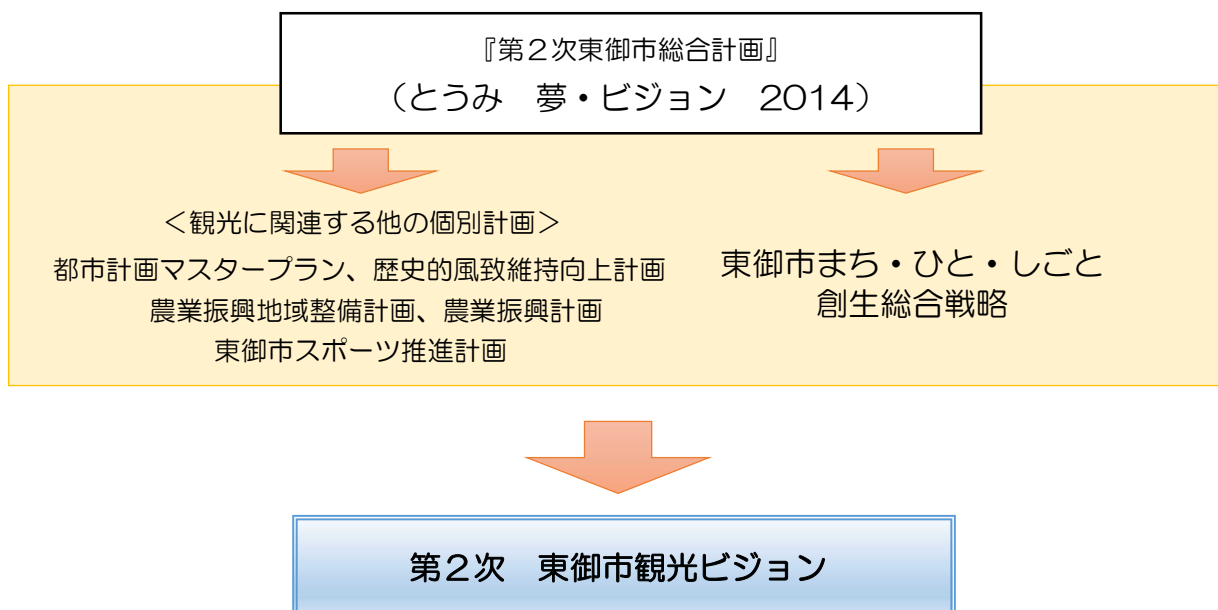
平成30年度からは、本ビジョンの上位計画である第2次東御市総合計画の後期基本計画がスタートしたことから、令和元年度が計画期間の中間年次にあたる本ビジョンにおいても、令和2年度から令和6年度までの後期5年間の計画内容について、観光を取り巻く環境や社会情勢等の変化に対応した実効性のあるものにするため、所要の見直しを行います。

ビジョンの視点：「点」をつなぎ「線」へ、そして「面」へ



2. ビジョンの位置づけ

このビジョンは、『第2次東御市総合計画』（とうみ 夢・ビジョン 2014）における、まちづくりの基本目標「地域の魅力を活かし、活力とにぎわいを生むまち」に掲げる施策を具体化する個別計画として位置づけ、本市の観光振興を目的に、歩むべき方向を示すとともに、関連する推進施策についてまとめるものとします。



3. ビジョンの期間

このビジョンは、平成27年度（2015年度）から令和6年度（2024年度）までの長期的な視点に立って設定するものであり、中間年度にあたる令和元年度（2019年度）に観光を取り巻く環境の変化を見据えて見直しを行います。

